

# 保育園での異文化体験エピソード



## その17 「いただきます」って、何ていうの？



イラスト・うつろあきこ

韓 国人のヒョンチャン君（5歳児）は人気者。しかも、韓国語の先生。友だちに「〇〇って、何ていうの?」「『いただきます』って、何ていうの?」と問いかけては、笑顔で答えています。日本語も上達し、今ではバイリンガル。迎えに来たお母さんとは韓国語で会話をしています。チンプンカンプンの保育士に、ヒョンチャン君は「ありがとうございました。さようなら」と、挨拶をして帰りました。「お母さんに、挨拶をするようにいわれたんだろうな」と、保育士は思ったようです。

また、韓国からお客様が来園したときは大活躍で、いろんな質問に韓国語で答えています。お客様も、子どもの生の声を聞くことができご満悦です。

子どもたちにはいろんな学びの機会がありますが、子どもどうしのかかわりの中で外国語を覚えられることは、とても素晴らしいこと。また、ヒョンチャン君は母親と保育士という大人の関係をスムーズにするコーディネーター、ときには園を紹介するヤングスポークスマンに。異文化背景をもつ子どもたちは刺激し合い、自分の文化をもってさまざまな貢献ができるのですね。これから大いに期待できます。

(中山利彦 / 東京都新宿区・新宿せいが保育園副園長)

### 「地球家族ネットワーク」へのお誘いとエピソードのお願い

保育は、世界中の人と仲よく生活できること（平和）を伝える役割があります。

そこで、国際交流や外国籍の子どもたちの保育について情報交換をしたい方は、「地球家族ネットワーク」に参加してみませんか?!

また、外国籍の子どもを受け入れて、心に残るエピソードがありましたら、ぜひお寄せください。

全私保連 保育国際交流運営委員会

TEL 03-3865-3880 / FAX 03-3865-3879

E-mail : ans@zenshihoren.or.jp